

2019年6月1日オープン

寿新センター見学のレポート

[レポート作成者] 釜ヶ崎支援機構 松本裕文

[見学日時] 2019年9月18日

[当日の経緯とレポートの成り立ち]


寿支援者交流会の事務局長で、寿生活館の職員高沢幸男さんに、案内していただきました。

高沢さんは、「新センターがきれいになりすぎて、野宿の人が利用しづらい」と繰り返し教えてくれました。

その点を踏まえつつ、寿の新センター建替の状況について、私の目で見ただけをまとめ、釜ヶ崎のセンター建替をめぐる話し合いに資することを目的にこのレポートを作成いたしました。

寿センター建替後の全景





寿町スカイハイツ(市営住宅)

横浜公共職業安定所横浜港労働
出張所業務課(寿町庁舎)

寿町健康福祉交流センター(横浜市)



●健康福祉交流センター外壁の色調は街の色合いから採取したカラーで構成されている。

●中央にエレベーターが見える

●道路と敷地の間にフェンス・植栽・段差等なく目線低い位置から、建物に入りやすい(吸い込まれる)デザイン。

●健康福祉交流センターは、1階2階部分に廂を広く張り出して、「まちの縁側」としている。



健康福祉交流センターと横浜港労働出張所(その1)

● 正面からは、一体の構造に見える。横浜港労働出張所のサイドに車椅子用のスロープがあるが、こちらは、健康福祉交流センターの設備のようだ。しかし、横浜港労働出張所の日よけフェンスとスロープの手すりの色調が揃っているため、一体物の建造物に見える。横浜港労働出張所正面部分も大きく庇を張り出している。



健康福祉交流センターと横浜港労働出張所(その2)

- 背面からみると、完全に切れていて、まったく別の施設であることがわかる。なお神奈川県労働局(国)は、横浜市より敷地を賃借している。



健康福祉交流センターと横浜港労働出張所(その3)

- 健康福祉交流センターの正面は舗装部分と芝生部分があり、イベントの際の使用が想定されているようだ。舗装部分にある点はイベント時に区割りする場合の便宜を考慮したものかもしれない。また、ベンチには当然横になる人もいる。横になることを避けるための人にやさしくない突起物等はつけられていない。
- 向い側の施設は寿福祉センター保育所。地区内には2ヶ所保育所があり、利用者の6～7割は外国から定住した人たちだそうだ。



健康福祉交流センター1階

ラウンジ(飲食コーナー、娯楽コーナー、テレビコーナー)。寬いだ雰囲気。公共施設に飲食コーナーがあることに注意。平日は21時まで開いている。



図書コーナー 利用者多く、2/3の席が埋まっていた。アートの展示がある。本の貸出ができる。



多目的室[貸出施設]。訪れた日は、健康啓発関係のエクソサイズが行われていたようす。雰囲気としては、西成市民館やひと花センターのプログラムのようなかんじ。



移動して暮らす人の利便を意識したウォーターサーバー。



※その他1階の貸出室として、調理室、木工手工芸などの趣味の活動のための作業室などがある。

※同様のフリー利用できる施設として寿生活館があるが、生活館はホームレス状態の人が多く、こちらセンターは生活保護受給者が多い印象。棲み分けがゆるく行われているかんじ。寿以上に規模があり、同様に居住環境が狭小な釜ヶ崎ではこうした施設に対するニーズは高いと考える。

健康福祉交流センター2階(その1)テラス部分

診療所。精神科デイケアを併設している。



健康コーディネート室。健康づくり・介護予防の講座や訪問活動。専門スタッフによる健康相談。おそらく横浜市から保健師が配置されているのではないかとと思いますが、未確認。



銭湯の扇湯。ジェットも電気もない関東風きっぷのよい風呂。関西人には少し物足りないが、壁絵があります。



「まちの縁側」の幅が想像できる写真



健康福祉交流センター2階(その2)施設内

事務室。地続き雰囲気続きを大事にしたガラス張り。



中央にある活動・交流スペース[貸出施設]。右奥が会議室でパーティションを外すことができる。全体で30人とパンフレットに書いてあるが、もっと入りそう。



授乳室。



展示されていた旧寿センター。法や条例で規制がある部分をのぞき、ほぼ同等面積で建て替わったと聞いた。



健康福祉交流センター2階(その3)施設内 ことぶき協働スペース

地域支援・まちづくりのための拠点。NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボが横浜市より受託・運営(10ヶ月2,484万円)。オープンして日が浅いこともあり、手探りで進めている感じ。寿町でもともと活動していた団体ではなく、外からの風の役割を担い、内外の連携に努めると思うが、どのような実績となるか注目していきたい。



【施設ごとの利用できる時間と団体予約について】

ご利用の際は、必ずご確認ください。

利用料は原則無料ですが、目的により使用できない場合と使用料を支払うことにより利用できる場合があります。広場や駐車場の利用についてはご相談ください。

階	施設名称	月	火	水	木	金	土	日	祝日	休館日	
1	ラウンジ・図書コーナー	○	○	○	○	○	○	△	△	第4日曜・ 臨時休館日・ 年末年始 等	
	多目的室(34人)	○	○	○	○	○	○	△	△		
	調理室(7人)	○	○	○	○	○	○	△	△		
	作業室(12人)	○	○	○	○	○	○	△	△		
2	診療所	受付 9時20分～12時5分、13時45分～17時40分					×	×	×	×	年末年始等
	健康コーディネーター室	△	△	△	△	△	×	×	×	年末年始等	
	一般公衆浴場	13時～21時							×	13～21時	日曜・元旦
	運動・交流スペース (会議室、8人・12人)	○	○	○	○	○	○	△	△	1階に同じ	
	(スペース全体、30人)	○	○	○	○	○	○	△	△		
こども遊働スペース	○	○	○	○	○	○	△	△			

（開館時間）
 ○ … 午前9時から午後9時まで
 △ … 午前9時から午後5時まで
 × … 閉館
 … 団体予約が必要な施設。
 年末年始 … 12月29日から1月3日まで

利用区分	区分	平日・土曜日	日曜日・祝日
午前	9時から12時まで		
午後1	12時から15時まで		
午後2	15時から18時	15時から17時	
夜間	18時から21時		

【貸出施設のご利用について】

○ご利用になれる団体

寿地区の住民をはじめとする市民で、「健康づくりや介護予防」、「自立支援促進」、「健康福祉の向上」、「相互交流の推進」などの活動を行っている3名以上の団体がご利用になれる。団体を事前に登録しておくこと「区分」に応じた事前予約ができます。個人的な目的で開催される行事・活動などは、目的外使用許可条件に該当するため、別の扱いとなります。

○団体登録

団体登録を行っていただくことで、団体の区分に応じてご利用できる種(施設数・時間等)を事前予約できます。

○団体の区分

団体	定義	予約開始	予約枠数
健康福祉交流団体	健康福祉交流活動を目的とする団体です。	2か月前の1日から	3枠まで
健康福祉協力団体	健康福祉交流活動を支援する団体です。	1か月前の1日から	2枠まで

※なお、目的外使用許可条件に該当する活動を行う場合は、有料で使用できます。

○利用の申し込み及びお問合せ先

下記の電話番号にお気軽にお問合せ下さい。

【アクセス】

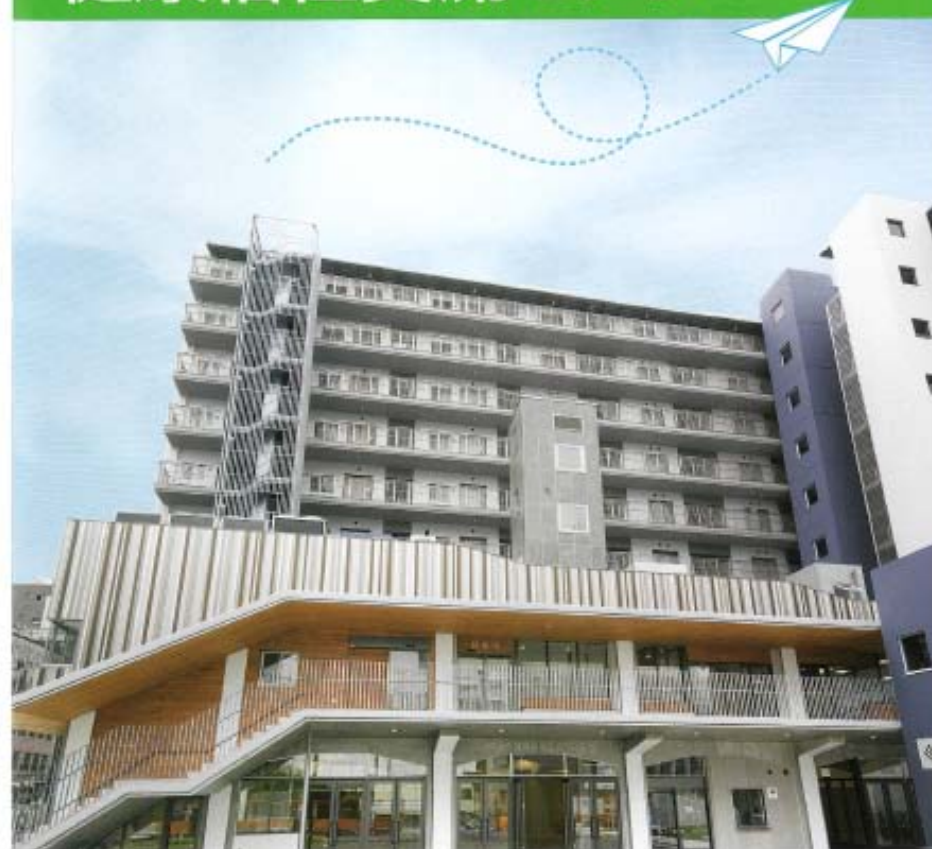
〒231-0026 横浜市中区寿町4-14

◆交通

JR京浜東北線(根岸線)「石川町駅」下車 徒歩 6分
 横浜市営地下鉄「伊勢佐木長者町」下車 徒歩10分



横浜市寿町 健康福祉交流センター



横浜市寿町健康福祉交流センターは、寿地区の保健医療の充実を図るとともに、寿地区の住民をはじめとする市民の健康づくりや介護予防の取り組み、自立した生活の支援、生活環境の向上を推進し、さらには市民の社会参加を促進して、市民相互の交流を深めることで、福祉の向上に寄与するために設置された施設です。

【指定管理者】公益財団法人 横浜市寿町健康福祉交流協会

電話番号 045-662-0503 <http://www.yokohama-kotobuki.or.jp/>

この印刷物は、責任ある資源源を使用し「FSC」森林認証紙を使用し、環境に配慮した資材と工場で製造されています。
 発行：公益財団法人横浜市寿町健康福祉交流協会 デザイン/印刷：株式会社野村印刷



利用時間などについては、裏面を御覧ください。

【1階 ラウンジ／図書コーナー】

予約せずに誰でも利用できるスペースです。「ラウンジ」には飲食コーナー、娯楽コーナー、テレビコーナーなどがあります。

「図書コーナー」では静かに自分だけの時間を過ごして下さい。本の貸出しもします。様々なアート作品を展示するなど憩心地的な空間を提供します。(図書約1万冊)



【貸出施設】

車貸出については、裏面をご覧ください。

【1階 多目的室】

(標準定員34人)

軽い運動や多人数による会議、講座、研修など、幅広い用途にご利用ください。卓球などの遊具を備え、個人利用の時間帯をもうけてお楽しみいただけます。



【1階 調理室】

(標準定員7人)

調理台や調理器具などが揃っています。楽しいお食事会の準備や調理実習などにご利用ください。



【1階 作業室】

(標準定員12人)

木工作業や手工芸など趣味の活動のほか、小規模の打ち合わせ等にもご利用できます。



【2階 活動・交流スペース】

(標準定員①会議室8人、②会議室12人、③全室30人)

パーティーホールをたたくと、周仕切りのない一つの空間になります。多目的な空間として一体的にご利用できます。



隣接した施設と合わせて予約し、ご利用ください。

【2階 診療所／精神科デイケア施設】

地域医療を支える診療所として、患者に寄り添った医療を提供します。医療費の自己負担金の持ち合わせがない方もお問合せください。当診療所は、直接脳実用治療「DOT5」を行っているほか、相談室では様々な相談をお受けしています。

◆診療科目：内科、精神科、心療内科



【2階 健康コーディネーター室】

地域住民をはじめ、市民の「健康づくり・介護予防」につながる活動を調達の開催や訪問など様々な形で支援します。また、いつでも気軽に健康チェックができ、専門スタッフが健康に関する相談を受け付けています。



【2階 一般公衆浴場】

住民の生活環境の向上やふれあい交流の場として、一般公衆浴場を設置します。「館南湯の日」や「柚子湯の日」など季節にちなんだイベントなども行います。

◆入浴料金：
大人470円
中人(6歳以上12歳未満)200円
小人(未就学児未満)100円

◆物販品：タオル、石鹸、飲み物等



【2階 ことぶき協働スペース】

地区内外の各種団体及び事業者等と連携して、様々な事業や推進して地域支援、まちづくりを推進します。

- ◆主な業務内容
 - ①活動拠点の運営やワークショップの開催
 - ②地区内外の団体等と連携した取組や企画実施
 - ③ボランティアセンター運営
 - ④情報収集や発信
 - ⑤問題解決のための電話支援
 - ⑥調査研究の拠点提供、地区データの蓄積や活用等

◆運営団体：NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ
◆問い合わせ：「ことぶき協働スペース」 TEL. 045-323-9019
◆URL：http://kotobuki.space



周辺施設等(その1)

横浜市生活自立支援施設はまかぜ(自立支援センター)。健康福祉交流センターの真向かいにある。センター建てかえの際に、都市におけるサービスハブ構築論を検討しつつ、大阪市における効率の良い相談機能の集約を図ることが考えられる。



かながわ労働プラザ(Lプラザ)。健康福祉交流センターから3ブロック離れた位置にあり、神奈川県庁の施設である。1階に寿労働センター無料職業紹介所、神奈川県ホームレス就業支援協議会が8階に入っているが、私が訪れた時には、ほぼ寿の労働者や生活保護受給者の姿は見られなかった。路上からの視点を持つ人たちにとっては、とても入りにくい施設と感じた。釜ヶ崎においても労働施設の高層への積み上げが検討されているが、積み上げるにしても、人が入りやすく回遊できる仕組みづくりの大切さに、改めて気づいた。



周辺施設等(その2)



寿生活館前の寿児童公園のジャングルジム兼炊き出し用作業台。越冬などの際には、炊き出しの拠点にかわる。

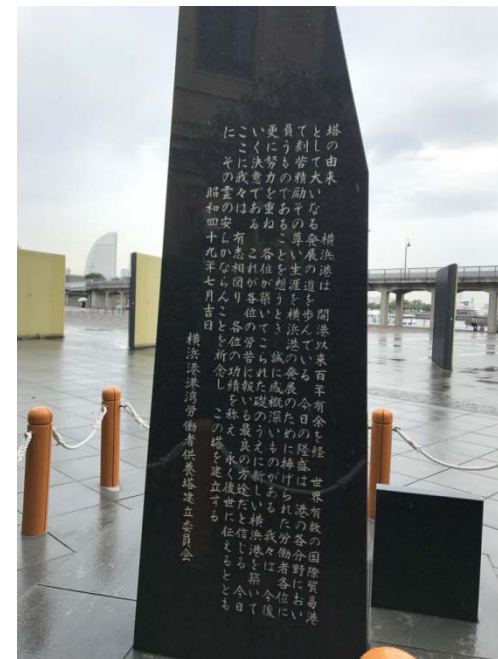
長期にわたる寿の労働者団体・支援団体と横浜市との関係の積み重ねで横浜市が設置している。

災害時における活用やこどもの遊び場としての併用など、参考となる事例。

また、話は戻ってしまうが、健康福祉交流センターは防災拠点としての機能も確保していると聞いているものの、どういった機能なのかという点について、今回知ることができなかった。こちらも今後の宿題。



周辺施設等(その3)



少し前にリニューアルされた横浜港象の鼻突堤。港湾労働者の供養塔がありました。

その付近に写真付きの歴史ボードがあり、「港を支えた船荷役」など経済発展を支えた港湾労働の辛苦を顕彰する説明があったと思います。こういう厳粛な内容にするかは別として、釜ヶ崎に生きた人々をたたえる内容の展示について参考にしていただければと思います。

日本の社会を下支えしてきた寄り場の構造と、それを変えようとしてきた労働者・野宿生活者の取り組み、これから何をめざしていくのかがわかり、結果として、初めて来た人にとってもセンターの使い方がすっとわかるモニュメントがいいと考えます。

おわり